



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO DOHO ENGOKAI

同援だより

2019年 新春号 (182号)



新年のご挨拶

理事長 飯山 幸雄



あけましておめでとうござい
ます。年頭に当たり一言ご挨拶申
上げます。

まずもって、日頃本会の事業
運営に深いご理解と的確なご支
援を賜っております関係各位の
ご厚意に心より感謝申し上げます。

今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、本年もよ
ろしくお願い申し上げます。本会といたしましては、各
施設各事業所をご利用いただいている皆様へのサービ
ス充実にも努めておりますが、本年も役員一丸となりま
して施設・事業所の機能を高め、さらに皆様のご満足
いただくことができますよう努力を重ねてまいります。

昨年を振り返りますと、社会福祉法人制度改革への対
応も進み、また各施設各事業所をほぼ順調に運営するこ
とができました。夏季はこのほか厳しい暑さが続きま
したが、幸い熱中症で体調を崩されるご利用者(児)も
なく乗り切ることができました。予定をしておりました
施設改修等も滞りなく実施できました。

さて今日、高齢化の進行とともに介護需要がますます
増大してきている中、深刻な人材不足が続いております。
本会といたしましては何とか必要人員を確保してござい
ますが、決して安心しては行かぬ状況ではないと認識して
います。国も東京都も介護人材確保対策に力を入れて
いただいておりますが、本会は認められる加算を活用する
とともに介護関係施設及び事業所はもろろんのこと、全
ての施設並びに事業所におきまして働きやすい職場づく
りを進めて福祉人材の確保と定着をはかり、ご利用され
る皆様への一層のサービス向上に努めてまいります。

また、国・自治体におきましては今後の超高齢社会を
見据え、地域包括ケア体制の構築を進めております。本
会も各施設各事業所所在の自治体にご協力申し上げます。地
域包括ケアの一翼を担えればと考えています。その一方、
政府は社会保障制度をさらに全世代対応型のものとし
るべく未来投資会議において議論を行っていくとして
おります。その中で社会福祉政策についても議論がある
かと思えますので、このような動向にも十分配慮して法
人運営に当たってまいりたいと存じます。

皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご
挨拶といたします。

退 任 挨 拶



前理事 橋本 泰子

同胞援護会の理事を拝命して十年余になるが、同胞援護会との最初の出会いは、昭和三十一年のことであったと思う。将来の社会福祉実践を志して大学に入学した二年目のことである。

東京の国鉄中央線に乗車、立川駅で乗り換えて東中神駅に降りた。当時は視野を妨げる建物がなかったので、少し歩けば同胞援護会の建物が視野に入った。同胞援護会の敷地に入ってから広い庭が続き、児童施設の入所児童と思われる子供たちが、元氣よく駆け回っていたことをよく覚えている。

同じ時期に、キリスト教の団体が運営する施設を見学しているが、両施設の醸し出す雰囲気は全く異なるものであった。どちらが望ましい施設運営なのか判断しかねたが、運営主体の相違によってこれほどまでに影響するということが知らされた。



あれから六十年余、社会福祉実践や教育に携わって、我が国の実践の現場の変化を見つめ、学んできた。長寿化に伴い折々に制度化されたサービスや隣人等に支えられなければ維持できない日常が、多くの人の上に降りかかっている。一人ひとりの自己努力をベースに、必要なサービスを効率よく活用し、できる限り長く、自分らしい人生を全うしたいものである。

長年にわたり

東京都同胞援護会の

経営にご尽力いただき、
ありがとうございます。

新 任 挨 拶



大正大学 人間学部
理事 宮崎 牧子

このたび、橋本泰子先生の後を引き継ぎまして、理事をつとめさせていただきますことになりました。二〇一七年から同胞援護会の評議員として、事業ならびに経営に関わってきましたが、より一層重要な任務にあたることとなり、身が引き締まる思いです。

評議員になる以前は、学生の実習配属先として、あるいは就職先として、同胞援護会との関わりをもち、理解を深める機会を持つてまいりました。評議員に就任してからは、同胞援護会の強みを再認識いたしました。その強みの一つは、歴史的伝統があることです。二つには、東京都内の複数の地域を拠点として、社会福祉施設、相談機関、事業所を運営しているのみならず、医療機関があることです。

しかし近年、その強みを揺るがしかねない状況が出てきています。介護保険事業や医療機関の経営について厳しさが増し、それゆえ社会福祉法人の経営についても厳しさが一層

増しております。しかも、福祉人材を確保することが困難な現状にあつて、施設や事業の運営にも影響が及んでくると聞いております。同胞援護会は、さまざまな種類の社会福祉施設と医療機関を運営していますが、介護保険事業と医療機関の経営に加えて、必要とされる職員の職種や人数を確保することが課題になっていきます。

さらに、社会福祉法人改革によって、昨年度から社会福祉法人はより一層の公益活動、社会貢献活動に取り組むことを求められるようになりました。こうしたことに対しても、同胞援護会は、東京都内あまたある社会福祉法人の中でも歴史があり、法人としての規模の大きさを考えると、他の社会福祉法人をリードしていかなくてはならない存在だと思っております。その場合、前にも述べましたように、東京都内にくつつかの拠点をもっていることから、その拠点地域を今まで以上に意識して、地域住民に認知される社会福祉法人となることが重要です。その点では、各拠点の施設や事業所から、地域の課題解決に向けた企画があがってきて、それを理事会が応援できるような体制になることを切に願っております。

激動の時代に、同胞援護会の理事を引き受けることは、身の引き締まる思いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



立教大学
コミュニケーション福祉学部
評議員 飯村 史恵

この度、社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会の評議員を拝命致しました。就任にあたり、自己紹介を兼ねて、私と社会福祉との関わりを述べさせていただきます。

私は福祉系大学を卒業後、社会福祉法人東京都社会福祉協議会（東社協）に就職しました。飯田橋の新築ビルに東社協が移転をした際の採用で、同期入職が十三人という時代でした。しかし、完成間もないピカピカのビルに私の座る席はなく、「採用されたはずなのに」という不安をよそに、初職場は信濃町にあった高齢者の職業紹介所でした。

大学を卒業して間もない若輩者が六十五歳以上の方々の就職相談を行うという無謀な行為は、振り返っても赤面の至りそのものでしたが、数多くの忘れ難く、貴重な経験を積むことができました。職を求めて訪れる方は、実に複雑な背景を抱えており、今晩宿泊する場がないという方に出会い、生活保護のケースワーカーとの交渉に向くこともありました。時には、警察関係者や厚生省（当時）課長の訪問もあり、二十四時間テレビなどマスコミの取材を受けることもありました。最も忘れ得ぬ出来事は、上司と共に取り組んだ

「働くひとりがぐらし高齢女性の生活意識調査」の実施で、就業独居女性の生活不安が住居の有無と深く結びついていることを示し、研究者等からも多くの反響がありました。

都道府県社協では珍しい「現場」での学びは、その後コンピュータを使用した福祉情報システム開発、認知症高齢者・知的・精神障害者の権利擁護センター、福祉サービスマス第三者評価など、全国初の事業を展開する部署に異動した際にも活き、「福祉サービスマス」は誰のために存在するのかという学生時代の恩師の言葉を、何度も反芻する日々に関がりました。

東社協を二十年余で退職し、大学で社会福祉士を養成する教員となりましたが、現在の研究テーマは全て社協時代に蓄積をしたもので、①判断能力の不十分な人々の「権利擁護」の追求②法学関係者との共同研究による社協分析③個人情報保護と利活用です。

現在、社会福祉法人は極めて厳しい状況に置かれていとされていいますが、私は社会福祉法人ほど時代の先端を拓くユニークな活動が展開できる法人はないと考えております。多様な生活環境にある人々と地道に向き合い、一人ひとりの存在を大切にしてきた社会福祉「現場」の活動が、幅広い分野の人々に理解されるよう私も少しずつ努力していきたいと思っております。今後共、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合支援センター開設

昭島病院 総合支援センター長 定常 裕子

総合支援センターは、患者サービスマス向上・地域包括ケアシステム推進・病床安定稼働を目的として平成三十年五月に開設されました。この部署は、「医療福祉相談」「入院支援」「地域連携」で成り立っています。

医療福祉相談は、医療ソーシャルワーカーが、治療を必要とする患者様の抱える社会的・経済的・心理的問題についての相談窓口です。入院支援は、入院前から患者様一人ひとりの状況をしっかりと把握し、入院中及び退院後も含めた一貫した支援を行い、安心していただける環境を整えます。地域連携は、地域医療を担う近隣の病院・診療所などとの調整窓口です。このような病院の機能を患者様中心にひとつにまとめ、それぞれの専門スタッフが一堂に会し、協力して業務を行っています。

目的の一つである患者サービスマス向上については、安心して医療を受けていただくために、医療相談・退院支援を行い、状況によっては、地域の医療・福祉・介護関係者と切れ目のない連携を図っていきます。

地域包括ケアシステムの推進については、昭和郷施設間で「地域包括ケア推進会議」を定期的に行い、いろいろな機能を持つている施設間での協力体制などについて話し合いを行っています。また、地域

の行政や事業所などとの連絡調整、顔が見える関係構築を行っていきたいと思っております。

病床安定稼働、これに関しては今までにない業務内容で、入院調整、在院日数をみながらの病棟間のベッドコントロール・退院調整など、一つの部署でできるものではなく、医師・看護師をはじめいろいろな部署との連携・調整が必要になってきます。

センターを開設して半年が経とうとしています。日々行っていることが形になり、患者様からも病院職員からも「センターへ相談すれば安心だ、大丈夫だ」といわれるような部署にしていきたいと思っております。

同胞援護会の中長期計画にもある『高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援』のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようにするとともに、地域すべての方が安心して生活できるように、関係機関と連携し、福祉の街づくりを努め、地域の中核病院として貢献できるように協力したいと思います。



介護技能実習制度について

フジホーム
團長 小金澤 康哲

【はじめに】

介護人材不足が深刻化し、団塊の世代が後期高齢者となる二〇二五年には全国で三十万人以上の人材不足が懸念されています。東京都では、約二十四万人の介護職員が必要と推計される中、三万六千人程度の不足が生じるものと見込まれています。昨今、職員補充が行えない期間が長期化する施設が増える中で、事業の縮小や利用者の受け入れ制限を強いられる施設、人材確保がままならず新規開設に踏み切れない施設も出現するようになりました。

場で垣間見る中、今後の社会福祉を取り巻く環境を見据えて「介護技能実習制度」に着目をし、受け入れ体制構築に向けて準備を進めていくこととなりました。

【技能実習制度とは】

技能実習制度の歴史は古く、一九六〇年代後半頃から海外の現地法人などの社員教育として行われていた研修制度が評価され、これを原型として一九九三年に制度化されました。

この制度の目的・趣旨は、我が国で培われた技能、技術又は知識を開発途上地域等へ移転を図り、当該開発途上地域等の経済発展を担う「人づくり」に寄与するという、国際協力の推進です。制度の目的・趣旨は一九九三年に創設されて以来、終始一貫している考え方であり、技能実習法には基本理念として「技能実習は、労働力の需給の調整の手段として行われてはならない。」（法第三条第二項）と記されています。

技能の継承を図り、国際協力を目的に実施している技能実習制度ではありますが、実習生の受け入れに際しては、賃金未払いや最低賃金以下の低賃金で労働に従事させるといった悪質な業者による人権侵害事

案も多発、過酷な労働条件に耐えかねて失踪してしまう実習生も後を絶たないといった問題が浮かび上がりました。そのため二〇一七年十一月「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（技能実習法）が制定され、前述した基本理念をより強固なものとし、技能実習生の人権擁護の観点から監理団体の設立等を受け入れについて大きく見直しが図られました。

この技能実習制度の内容は、外国人の技能実習生が、日本において企業や個人事業主等の実習実施者と雇用関係を結び、出身国において修得が困難な技能等の修得・習熟・熟達を図るものです。期間は最長五年とされ、技能等の修得は、技能実習計画に基づいて行われます。

技能実習制度の分野は、農業・漁業・建築業・製造業等七十七種一三九作業と多岐に渡り、技能実習制度に「介護」職種が追加されたのは技能実習法と同時期の二〇一七年十一月と日は浅く、これからの分野と言えます。

【ベトナム面接会】

来年度より、特別養護老人ホーム（フジホーム）にて実施する外国人技能実習生の受け入れの為に二〇一八年五月十九日（土）から二十四日（木）の日程にてベトナム社会主義共和国ハノイ市で行われた合同面接会に参加しました。今回、面接会を行った会場は夕



対象である学生たちは、看護学科に通学している学生たちです。毎年、九月に同僚部に一二〇名が入学し、成績優秀者の中から選抜された六十名が第二外国語として、日本語を四年間で学習します。四年間の学習で日本語能力試験N1に合格した学生は、さらに勉強し、日本の国家資格の正看護師試験を受験、合格後に日本の医療機関で正規に看護師として就業することができるようになります。日本語能力試験とは、N1、N2、N3のレベルがあり、N1レベルとは、日本の新聞を読み、理解でき、日常会話にも問題なくついていけるレベルをいいます。N3レベルは新聞の見出し程度から概要をつかみ、日常会話も簡単でゆっくりであれば、理解できるレベルをいいます。N1に至らない学生も多くおり、その中から日本で就労希望している学生が今回の対象者となります。今回、面接するのは、技能実習を希望した十四名。うち八名はN2を取得しており、六名はN3取得者です。面接会には、私達を含む受入事業所として登録している特養、病院、老健、有料老人ホームの七事業所五法人が参加しました。

私たちのような介護施設が外国人技能実習生を受け入れるためには二つの方法があり、ひとつは企業単独型、もうひとつが今回参加している非営利の団体監理型になります。団体監理型とは、私たちのような事業所が実習受入実施者となり、監理団体となる事業協同組合が契約したベトナムにある送り出し機関を通し、実習生を受け入れます。

技能実習生は、入国後、技能実習一号として集合研修で一ヶ月間、日本語や日本文化、基礎的な介護技術を受講します。その後、受け入れ施設に配属され、技能実習を行っていきます。来日から一年後、三年後にそれぞれ技能試験があり、技能実習二号、三号と在留資格の取得が必要とされています。五年後に技能実習を終了し、帰国となりますが、現在、新制度として、十年までの延長や新たな在留資格の創設などが協議されており、技能実習生は、受入施設にて、日本人と同等の給料を支払われながら、実習を受けていきます。その際、宿舍となる住居や生活用品は受入施設で提供することになります。面接方法は、各事業所が十分ほどの持ち時間で、学生二〜三人を一組として、順々に行っていきました。学生たちの印象は、個々に性格の差はありましたが、全員、卒業後の進路に迷いなく、日本での技術の習得に対して夢と熱意に溢れ、熱心に話してくれました。最後は集合写真と日本での再会を約束し、帰路に就きました。

最終日の夕方、空港に着き搭乗手

続きを行なっていたところ、一人のベトナム人の若者を中心に十数人の団体が空港に入ってきた。不安そうに見送る年配の女性や老人、元気に手を振る同年代の青年たち、涙ぐむ人々に見送られ、大きなスーツケースを引きずりながらその若者が搭乗口へと消えていきました。その若者は、きつどこかの国へと出国し、見送りにきた人々は、若者の家族や親せきだつたのでしょうか。一人の若者が異国の地へと旅立つたびに大勢の家族の期待を背負ってくるのだと、その時、気づきました。

ひとりの若者が日本で実習するということがいかに大変な事なのか、日本での人手不足と外国人を实習生として受け入れる整合性などのように解釈していくのか、まだまだ課題が山積してありますが、選択肢はそう多くは残されてない現実を直視しつつ、取り組んでまいります。



【各施設の現状】

現在、高齢支援系施設では日本語学校に通う留学生を中心に外国人材を多数受け入れていきます。業務は介護業務の補助、雑務をこ

なしていただいておりますが、日本語能力は個々人によってバラツキがありますので介護職員がマンツーマンで指導にあたっています。

日本語でのコミュニケーションは容易ではなく、日本の生活様式の説明や機器の使い方などを説明する担当職員の負担は大きなものとなる反面、業務の見直しや伝わり易い様に丁寧な日本語の指導に努めることで接遇マナーの向上に繋がる等、施設にとっても得られるものは多いと感じます。また、外国人材受け入れに対するご利用者の反応も抵抗感があるのではないかと懸念しておりますが、温和でいつも笑顔で接する外国人スタッフを快く受け入れて下さっています。交流が深まることでご利用者も異文化に触れ、時には外国人スタッフに日本語のご指導をいただく等、良い刺激となつていくようです。ご利用者とのコミュニケーションが円滑に進むことで段階的に食事介助等の直接処遇に取り組んでいただき、実践力の向上に努めています。この様な取り組みを通じて各施設が外国人スタッフへの理解を深め、介護技能実習制度の受け入れに向けて着実に体制を整えています。

日本をはじめとした近隣のアジア諸外国も急速な高齢化を迎え、各国も人材確保に追われております。日本固有の文化、介護技術を大切にしながらも外国人介護人材の育成のためには異文化に対する相互理解を深め、ご利用者の安心・安全な生活を維持するためにグローバルな視点で取り組んでいきたいと考えます。

保育園の地域貢献のあり方

はいじま保育園
園長 川村 純子

昨年度、同援はいじま保育園の隣の土地に昭島市の防災倉庫が建設されました。保育園と防災倉庫の間は大人一人やっと通れるくらいです。で、災害時には防災倉庫の入り口に避難経路を確保しなければなりません。そのようなことから、保育園の避難経路確保と災害時帰宅困難者が発生した場合、保育園が一時滞在施設として機能することで、双方が協力し合うこととなり、防災協定を結ぶこととなりました。

昭島市の中で、一時滞在施設として協定を結ぶ第一号の保育園として、何度も昭島市と話し合いを重ね、ようやく八月に締結となりました。保育園を運営しながら、避難所を運営していくのは未知のことなので、想定外のことも起こると思ひます。そのため、マニュアルの整備や開設時の準備、避難時を想定した訓練等課題はたくさんあります。しかし、小さいお子さんがいる方や妊婦の方などは、保育園に避難できることで、安心な面もあるかと思ひます。いつ、どこで大災害が起きてもおかしくない時代となつた今、保育園の地域貢献のあり方のひとつとなるのではないかと思います。今回の協定がさきかげとなり、今後一層、地域に根差した保育園となれるよう努めていきたいと考えています。

同援のお祭り

今年度も各施設で、それぞれの趣向を凝らし盛況のうちにお祭りを開催することができました。ボランティアの皆様のご協力、寄せられましたご厚情に対しまして誠にありがとうございました。

昭和郷フェスティバル

十一月三日(土) 文化の日に昭和郷フェスティバルが開催されました。

当日は爽やかな秋晴れの中、大勢のお客様にご来場いただき、午前十時から午後二時までの開催時間中は終始賑わいのあるフェスティバルとなりました。



昭和郷フェスティバルは、地域の皆様との交流の機会にと毎年文化の日に開催しています。

昭和郷内各施設によるバザーを中心に、立川福祉作業所、東村山生活実習所のパン販売や業者の方による模擬店等も出店され、買物に併せて食事や休憩がとれるよう会場内各所に休憩スペースを設け、お客様が秋の休日をゆつくり楽しく過ごせるような会場配置に心掛けました。

今年度は、旧ライトホーム跡地の整備も完了し、メイン会場(病院に近いの広場前)のスペースも例年以上に広くなったため、会場内の混雑緩和も図ることができました。

各施設の売り場には衣類、日用雑貨品、食品等々たくさんの商品が並び、地域の皆様に加え、郷内施設の利用者の方々も買物等を楽しまれた様子でした。施設利用者の方々は様々な事情から外出や買物の機会がどうしても少なくなってしまうます。年に一度のフェスティバルを心待ちにしていらつしやる方も多く、各テントを回り、一つひとつ品物を手に取り、売り子さんとの交渉や欲しいものを手にした時にこぼれる笑



顔を見ることができただけでもこの一大イベントは、開催の意味があると感じました。

利用者の付添いや各売り場でのお手伝い等たくさんボランティアの方々に協力いただきましたこと、また、多数の商品のご提供をいただきましたこと、御礼申し上げます。また、お忙しい中、井上信二衆議院議員、白井伸介昭島市長はじめご来賓の方々にも多数お越しいただき、重ねて御礼申し上げます。

開場中のアトラクションとして、地元「玉川さくら太鼓」「昭和中学校吹奏楽部」の皆さんによる演奏が披露され、大勢の観客の方がそれぞれのパフォーマンスを楽しまれました。

さくら太鼓では三宅島や秩父地方の伝統的楽曲の勇壮かつ情熱的な演奏と、演奏後には観客の方々が太鼓に触れ、叩くという貴重な体験サーピスまで提供していただきました。



昭和吹奏楽部は三年生引退後の新体制での初ステージとの事でした

が、懐かしい曲から新しい曲まで流れるような軽やかな演奏に、観客の皆さんの手拍子とリズムに乗って元気に駆け回る子どもたちの姿も合わせ、フェスティバルをさらに盛り上げる一幕となりました。

今回のフェスティバルでは皆様方の温かいお志で約百万円弱の収益を計上することができました。この収益金につきましては、施設設備資金や利用者の方々の日常生活の充実あるいは地域福祉の発展のための経費の一部として有効に活用させていただく所存です。

昭和郷はこの地で戦後間もないころより母子福祉施設、保育所、特別養護老人ホーム等施設の拡充を重ねながら現在では多数の福祉施設と病院からなる地域の福祉拠点として運営を行ってきております。

このフェスティバル開催のみならず、昭和郷納涼の夕べ、地域自治会の皆様との合同防災訓練、毎月の学習支援活動・健康サロンの開催等地域交流や専門機能の還元を努めております。さらに今年度からは『医療・福祉・子育てライフコミュニケーション』「昭和郷」と銘打ってさらなる地域密着型の福祉・医療展開を図ることとしています。

今後とも地域に根ざした施設運営に努め、地域の皆様のご理解とご協力の下、成長を続けて行きたいと考えておりますので、皆様方の温かいご支援を頂戴できれば幸いです。

(平野 記)

さやま園祭を終えて

平成最後の秋、十月二十一日(日)にさやま園祭が開催されました。さやま園祭とはさやま園と隣にあるサンホーム、ひかり苑の三施設が合同で行う大きなお祭りの事です。この日のために三施設は六月より話し合いを重ね、準備をしてきました。「地域交流」をテーマにし、このお祭を通してより多くの人に施設を知ってもらう機会にしました。そのため、の取り組みとして三施設に「SAY AMAN」というさやま園のキャラクターをいたしました。三つ集めた方にはプレゼントを用意し、スタンプを採る際に園内を歩くことで少しでも施設を知っていただくようにと取り組みました。

また、さやま園は三施設のテーマのほかに「自分たちで作るさやま園祭!」とテーマを決め、利用者と職員が一緒になり自分たちで作りに上げて行くことが意識できるようにしました。利用者の方々はこの日を楽しみにしており、一週間前から設けている準備期間にチラシ折りやポスターを配りに行く等、職員の手伝いをしてくれず。その他にも「みそ汁や」という日中活動班の利用者は、普段は毎週金曜日に職員向けに十食限定で昼食を作っていますが、この日は豚汁を地域の方に向けて頑張っ

て作りしました。そのために前日より買い出し、野菜切りを行い、当日は朝から豚汁を作り、お客さんを待っていました。

模擬店以外にも沢山のイベントがあります。近隣の高校のギター部の素敵な演奏や「カルーア啓子」によるバルーンアートショウ、前年度より開催しているピング大会等のイベントで盛り上がりました。ピング大会は今年度、数寄屋橋ライオンズクラブ協賛にて上位五名にはデイズ二ペアチケットが贈呈されました。その他にも豪華賞品を用意し、より多くの地域の方に参加していただけることが出来、平成最後にふさわしい楽しいお祭りになりました。

(安間 記)



TURN

東京文化プログラム

東京オリンピック・パラリンピックに向けての文化オリンピックアイドとして、東京都などが主導し、二〇一六年より様々な文化プログラムが開催されており、その一つに「TURN」があります。

「TURN」とは、障害の有無・世代・性・国籍等異なる背景や習慣を持った多様な人々が出会い、その相互作用により表現として生まれるアートによる文化交流のことです。

小茂根福祉園では、(公益財団法人東京歴史文化財団)アーツカウンシル東京より要請を受け、二〇一六年の初年より参加し、今年で三年目となりました。アーツカウンシルの大西健太郎さんが、日常的に利用者と一緒に過ごす時間を作ることから始め、「大西健太郎×小茂根福祉園」として非日常体験が味わえるアート交流プログラムに取り組んできました。これまで四つの交流プログラムを実施し、東京都美術館で発信してきましたが、さらに地域に根差す取り組みとするために、「TURN LAND」として小茂根福祉園が地域の出会いの場となるよう、「こもねフェスタ」や「こもねまつり」でも発信しています。

言葉や文章で表しにくい活動でもあり、支援者は頭で理解しようとするのが難しい面があるのですが、利用者の皆さんは、アーツカウンシルの先導

で、自然に心身が開放されて、その人らしい表現方法で、日常ではない非日常体験をそれぞれの感性で楽しんでいきます。

これまでのプログラム紹介

- ・アルミホイルを体に巻いて衣装を作り身にまとう
- ・狭い部屋の暗闇でフラッシュ撮影を行い幻想的な写真を撮る『影の軌跡』
- ・銀のフィルムに寝転がり自分の型を他者が切り取って棒に付けて、ひらひらたなびかせながら歩く『みーらいらい』
- ・ある山奥の民謡に合わせて利用者の自由な動きや表現にスポットを合わせて創作ダンスを楽しむ『おダンス』利用者の輝きと感動を発見する『きらりグッド』

(佐藤 記)





◆ サンホーム ◆

焚き火で焼き芋、石焼き芋の移動販売、どちらも最近では見かけることのできない光景になってしまいました。したが、サンホームでは今でも焚き火を囲み、焼き芋交流会を行っています。

「健康で明るい自立した生活への支援」の基本目標の下、介護予防事業に取り組んでおり、中でも近隣施設との地域交流活動に力を入れています。

その中の「焼き芋交流会」は今年で九年目を迎えました。これはサンホームの畑で採れたさつま芋の収穫祭として開催しており、皆が楽しみにしている行事のひとつです。

敷地内に作った芋畑の手入れから交流会開催までの準備を利用者と共にを行います。畑の耕作、苗植え、途中の肥料、蔓返し、落ち葉集め等、各工程で利用者の持つ力が発揮されます。

十一月、収穫の時を迎えます。「さあ芋掘り！」今年のさつま芋の出来はどうか、味はどうか、興味深々な面持ちで収穫します。以前は大切に育てたさつま芋が動物に食べられてしまふという出来事もありましたが、今年は丸々とした大きなさつま芋を約四十キロ収穫することができました。

交流会当日、晴天の下、近隣の4施設が集まりました。公園で集めた落ち葉に火をおこし、芋を並べ、出来上がるまでじっと待ちます。焚き火の中でじっくりいぶされていく焼き芋に期待が高まります。「出来たよ！」の合図で収穫祭の始まりです。秋の風、紅葉の季節を感じながら皆で焼き芋を味わいます。

「美味しいねえ。」「昔は自分でもさつま芋を作ってたんだよ。」「さつま芋はつるも食べられるんだよ。」など昔のことを思い出し、話も弾みます。参加者は育ってきた地域、環境、時代等それぞれ違いますが『焼き芋』を通して、記憶に想いをはせ、共通の話題で交流を深めることができました。

来年もさらに美味しいさつま芋が収穫できるよう、利用者の知恵と力をお借りして取り組んでまいります。
(中元 記)



◆ サンライズ武蔵野 ◆

サンライズ武蔵野では、次世代の社会福祉等に携わる人材の育成を目的として、「保育実習」と教員免許取得に係る「介護等体験」の受け入れをしています。昨年度は保育実習十二名、介護等体験七名、今年度は保育実習十五名、介護等体験十四名、計二十九名受け入れ予定です。学生への指導だけでなく、養成校との連絡・連携等、実習に関して総括的に関わる受け入れ担当と、個々の学生の指導担当を配置し、きめ細やかに対応しています。

人材確保の視点からも、養成校との連携は非常に重要だと思えますが、実習の依頼・回答・報告等は概ね、書類のやり取りで完結することが多く、養成校担当者との顔を合わせることは多くはありません。そこで、顔の見える関係構築をという事で、実習受け入れ担当は、養成校が主催の実習連絡会等には積極的に参加するようにしています。そういった機会の無い学校とは、巡回指導時に挨拶をしたり、電話連絡等を小まめに言い、繋がりを持つということを意識しています。

そのような繋がりから、児童福祉施設への理解や実習の事前指導等で、大学での講義のご依頼を頂くことが多くなり、今年度は、駒澤大学（社会福祉士実習）、こども教育宝仙大学（保育実習）、東京女子体育大学（介護等体験）、目白大学（障が

同 援 俳 壇

昭島荘 道句会

コスモスや
風にゆられて 乱れてる
柿の実を
見ては郷里 思い出す
秋晴れや
元気に歩く 園児たち
神 きぬる
久しぶり
朝の散歩の 鯛雲
店先に
真っ赤なりんご 空あおぐ
散歩道
風が運ぶよ 金木犀
コスモスが
雨にまけじと 咲いている
加賀屋美知子

い分野ゼミ)、日本女子大学(フイールドワーク演習)の学生の前でお話しをする機会を頂きました。

実習で母子生活支援施設に来る学生は少ないため、母子生活支援施設の話だけではなく、広く福祉施設全般に言えること、学生生活、アルバイト等にも繋がるようなこと、学生のうちからすぐに実践できそうなことをわかりやすく話すようにしています。

様々な種別の施設を持っている法人への就職に繋がればと紹介もしています。また、啓発も兼ね、デートDVやリベンジポルノ等についても、少しでも身近な問題と捉えられるように伝えていきます。

大学でも母子生活支援施設について学ぶ機会は少ないのが現状ですが、DV被害者や被虐待児、ひとり親家庭は、支援職や教員等でどの現場に出ても、在籍していたり、関連があつたりすることもあるため、母子生活支援施設やひとり親への支援等を知ってもらふことは非常に重要だと考えています。また、全国的にも施設は減っており、母子生活支援施設を取り巻く環境は厳しさを増しています。そこで、教員や関係機関の方々に施設の現状について正しく理解してもら



い、味方を増やしていくこともとても意味のあることだと考えています。また、今年度、人材確保の観点から、東社協母子福祉部会において、学生や教員を対象とした施設見学会を初めて実施しました。そのことで、次年度の実習依頼や施設見学会にも繋がりました。

今後、次世代の育成、人材確保、養成校との連携強化を柱に、実習指導、施設見学会受け入れ、講義等、施設全体の取り組みとして行っていきたいと思っています。(鶴橋 記)

◆みなと保育園◆

みなと保育園では様々な年代のボランティアの方や職場体験に来て下さる方々との交流があります。

ボランティアAさんは近所の方で、毎朝幼児トイレを清掃して下さいます。プールの監視員や行事の準備・片付け、また散歩中に会うと安全確認の為、同行して下さるので、とても心強いです。ボランティアBさんは週に一度いらっしやり絵本を読んでもらいます。



その方は、一年ごとの子ども達の様子・成長を楽しんで下さっています。

毎年、近隣中学校の

職場体験を受け入れており、また今年度は高校生や大学生のインターンも受け入れました。初めは緊張で表情が硬かった学生も子ども達から遊びに誘われ、関わっていくと、自然と優しい笑顔になっていきます。保育への興味がある・なしに関わらず、一日を通して保育業務に携わる体験が未来に役立つと願い、継続的に取り組んでいます。

春休みや夏休みなど学校の長期休みの期間には、卒園した小学校二年生以上の子ども達が午前中に保育所体験をしています。お着替えの補助や室内での遊び相手です。プール活動や散歩では、対等に本気になって遊んでくれる小さな先生です。職員はその小さな先生達の赤ちゃんだった頃を知っているので、遅く育った姿に、嬉しさと喜びを感じます。今年度は保育士を志している卒園児の高校生も体験に来てくれました。様々な方との交流は子ども達に素敵な経験をさせてくれます。今後またくさんの方を受け入れて関わりを大切にしていきたいと思っています。

(鈴木 記)



リスさんの

おやつはいつも どんぐりね

あざやかに

紅葉にそめて 人さそう

いつもピリ

運動会は 皆走る

河内 道子

運動会

あっちにこっちに 声あがる

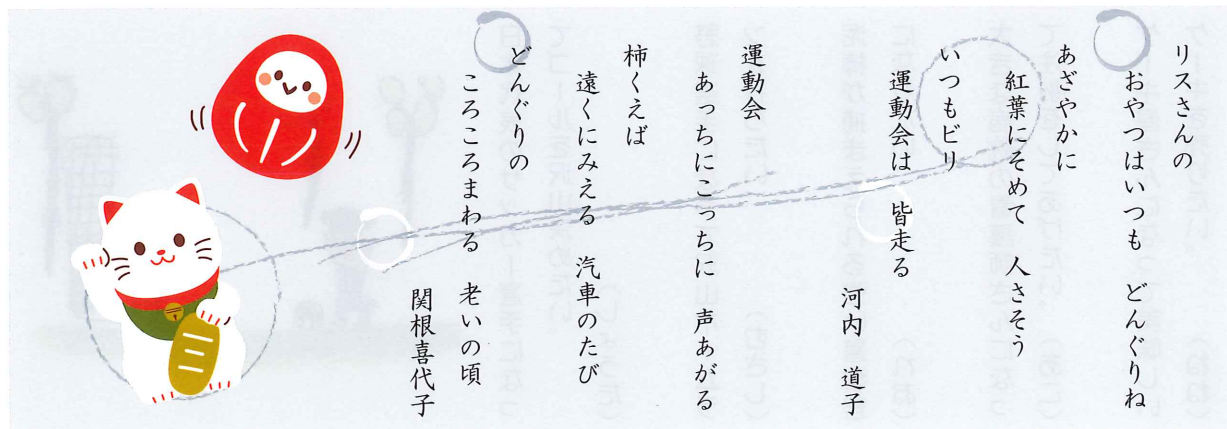
柿くえば

遠くにみえる 汽車のたび

どんぐりの

ころころまわる 老いの頃

関根喜代子



わたしの夢

昭和郷第二保育園

シュートが決められるサッカー選手になりたい。(りお)

サッカー選手のキーパーになりたい。(ゆづこ)

ミュージシャンになってテレビに出て歌いたい。(はるや)

宇宙飛行士になって宇宙の旅をしたい。(ゆづや)



水族館の飼育員になってイルカにのりたい。(りの)

手から炎が出せるマジシャンになりたい。(はるぎ)

サーティワンアイスクリームの店員さんになりたい。(ゆあ)

ねずみちゃんの形をしたアイスクリームを作って売りたい。(あおい)

パティシエになって素敵なケーキを作りたい。(ゆきな)

高校の先生になって子ども達に英語を教えたい。(さゆ)

日本代表のサッカー選手になってゴールを決めたい。(つばさ)

ディズニーランドのホーンテッドマンションで働きたい。(かいと)

パティシエになって可愛いケーキを沢山作りたい。(えりな)



日本代表のサッカー選手になってゴールを沢山決めたい。(しようた)

野球選手になって沢山ホームランを打ちたい。(むさし)

泥棒が捕まえられる強い警察官になりたい。(れお)

大きな病院の看護師さんになって注射をしてあげたい。(あこ)

ケーキ屋さんになって美味しいケーキを売りたい。(ねね)



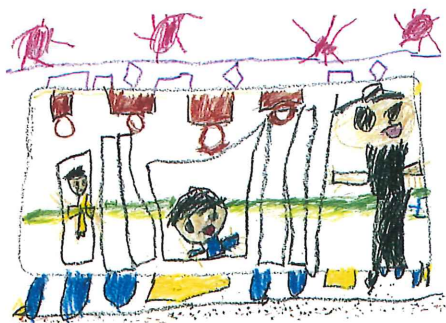
サッカー選手になって沢山ゴールを決めたい。
(ひゅうご)

恐竜博物館の館長になりたい。
(こうた)

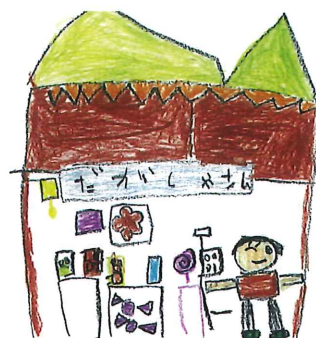
野球選手になって広島カープで活躍したい。
(みはる)

キャビンアテンダントになってアメリカに行きたい。
(るみ)

電車の運転手さんになって中央線を運転したい。
(ゆうわ)



お菓子を沢山買ってもらえる駄菓子屋さんになりたい。
(りゅうが)



イチゴのケーキを沢山作ってお店で売りたい。
(ゆめ)

パティシエになってシヨートケーキやパフェを作りたい。
(なお)

ボタンが付いているバックを売るかばん屋さんになりたい。
(こはる)

洋服屋さんになってピンクのスカートを作りたい。
(まどか)

小学校の先生になりたい。
(さち)



アクセサリー屋さんになってネックレスを売りたい。
(さき)

サッカーのゴールキーパーになって頑張りたい。
(しょう)

ロボットを作る人になってベイマックスを作りたい。
(かいと)

警察官になってパトカーを運転したい。
(ともき)

パティシエになってカップケーキを作りたい。
(あずさ)

サッカー選手になりたい。
(こうすけ)

パティシエになってクッキーやケーキを作りたい。
(ゆきほ)

本屋さんになって皆に沢山の本を買ってもらいたい。
(あみ)



ご支援ありがとうございました(敬称略順不同)

寄 付

◇北川穰一◇戸塚洋子◇山内悦◇森谷順蔵◇名久井佳治◇小林一江◇内田祥二◇豊野秀一◇長嶺久子◇松浦信一◇高橋暢子◇竹内捷郎◇森田美佐子◇小野澤知治◇富士見ヶ丘団地自治会 会長 山本兼三◇昭島市自治会連合会 第四ブロック ブロツク長 中里恒夫◇昭島市老人クラブ 中神伸よし会 会長 山田恒男◇昭島市自治会連合会 横田孝至◇社会福祉法人 同胞互助会◇昭島東部自治会 笹沢陸治◇昭島市保護司会 雨倉寿久◇昭島市民生委員 児童委員協議会 会長 鈴木康紀◇都営中神第二団地自治会 小川竜二◇地区第三者委員 市原奄子◇株式会社河村屋 代表取締役 染谷庄一郎◇㈱やまとモーターズ◇㈱共伸インテリア◇扶桑建設㈱ 代取 星野宗保◇(福)東京リハビリ協会◇水村肉店◇ネオ・ハルト㈱ 代表取締役 南浩一◇日清医療食品㈱東京支店 支店長 渡辺修◇昭島サンセルフ高野裕志◇(有)北川商店◇(株)橋本工務店 代表取締役 橋本誠一◇(有)ラッククリンサービス 代表取締役 佐々木憲寅 ◇(株)三ツ矢 代表取締役 中村暢克

後 援 会

◇原町三丁目町会 会長 土屋勝◇森川喜久男◇ヘアパルおかもと

岡本廣◇高仲智子◇中村定徳◇幡野信子◇青木保之◇桜岡ユリ◇広田規子◇宮奈多摩江◇矢部文子◇鮫島恭江◇山内悦◇下坪唱三◇ジーンズショップウエノヤ◇内田祥二◇(有)海老山◇長崎公園ラジオ体操会 代表 田村寿重◇おしゃれの店ひらまつ 平松春治◇(株)豊明◇(福)森の会広域地域ケアセンターバオパブ◇浦野工業㈱ 代表取締役 浦野静夫◇(株)ミートショップの鈴政◇東京厚生信用組合本店◇下坪唱三◇創洋紙商事㈱ 代表取締役 中屋守敏◇昭島サンセルフ 高野裕志◇(株)木の里工房木薫◇(株)ケイエス機材◇ネオ・ハルト㈱◇(株)安江設計研究所 代表取締役 安江知之◇(有)肉の高◇(株)日本総合音楽研究所 代表取締役 畠山寛◇昭和の森エリアサービス◇(株)スマイルケア昭和の森◇戸山商事◇(株)ラッククリン◇シダックスフース◇(株)石塚家具店◇シダックスフドサービス◇(株)東京支店◇ワタキューセイモア◇(株)東京支店◇昭島ガス㈱ 代表取締役社長 平畑文興◇大山町町会 会長 松野榮仁◇唐澤電気㈱ 代表取締役 小林利美◇(株)昭和造園◇つくば観光交通◇(株)八王子アイスフードセンター◇(福)村山苑 理事長 品川卓正◇(株)菊屋商店 代表取締役 宮崎貞夫◇(株)フソー◇マツタドライサービス◇(株)茅ヶ岳観光バス◇(株)金祥堂紙販売◇NPO法人日本幼児健康体育協会 池田意都子

資格取得の紹介

次の方々が資格取得しました。日頃の業務に活かしご活躍を期待します。

【介護支援専門員】

原町ホーム

生活相談員 富谷 菜由
介護職員 國部 由美

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

◎ 全国社会福祉協議会 会長表彰 さくらんぼ 主任 木村 泉

◎ 全国母子生活支援施設協議会 会長表彰 サンライズ万世 母子支援員 清水 育子

◎ 全国救護施設協議会 会長表彰 昭島荘 介護職員 穂谷 稔

◎ 東京都社会福祉協議会 会長感謝状 小茂根福祉園 副施設長 内田 憲
生活支援員 大芦 貴弘
事務員 黒澤 愛

◎ 昭島救急業務連絡協議会 会長感謝状 昭島病院 看護師 佐藤みどり

お詫び

夏号で掲載いたしました資格取得記事に誤りがありました。ここに訂正してお詫びいたします。小茂根福祉園 奥脇 康平

【正】 介護福祉士
【誤】 介護支援専門員

雑 感

先日、小・中学校の友人と少人数で同窓会を行いました。このような小さな同窓会が時々あるのです。久しぶりに会う友人とまずは近況報告から話が始まります。休む間もなく次々と話題が出てきます。お酒が入っていい感じになれば決まって小・中学校の思い出話が始まります。誰か一人は記憶力がいい人がいて皆が忘れていたような話を話し始め、それがきっかけで思い出した!と、その出来事にまつわる他の事や当時の先生の話、クラスの話、部活やクラブ活動の話... 思い出話が尽きません。

私達の学年は児童数が多かった学年だったので一度も同じクラスになつた事がない、という友人もいます。それでも、同級生の家族のことでそれぞれが詳しいのです。同窓会の度にお互いに両親や兄弟姉妹の事を確認することもお決まりの話題となつています。これからは両親の介護についても話題になりそうです。

―表紙の写真―

「水河期より厳しい自然を 生きてきた雷鳥 富山県立山にて」 (南山京子氏)

平成三十一年一月一日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四一)七一一
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会
発行者 飯山 幸雄
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都墨田区両国四一―一八
<http://www.doen.jp/>